

健康経営優良法人 取組結果

(2026年5月実施)

承認/社長	審査/課長	作成/推進者
吉田	山田	姉崎

重点課題（KPI）及び今後の課題

- 生活習慣病予防対策
- メンタルヘルス不調等の対策
- 喫煙率低下に向けた対策

重点課題	KPI（健康診断問診数値）	目標 2027年度	実績 2026年度	実績 2025年度	実績 2024年度	実績 2023年度	実績 2022年度	前年比
生活習慣病対策 喫煙対策	運動（1日30分以上、週2日以上）	34%	34%	16%	13%	21%	33%	+18%
	禁煙（喫煙習慣がない）	72%	72%	57%	62%	62%	70%	+15%
	飲酒（しない又は1日2合未満）	80%	80%	66%	65%	80%	83%	+14%
メンタルヘルス対策	睡眠（十分な休養がとれている）	63%	54%	63%	55%	38%	74%	▲9%
	ストレスチェック受診率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0%

今後の課題

今年度の健康習慣アンケートは、勤続年数4年以上、管理職・製造部門・間接部門の40名で実施をしました。
取り組みをするうえでデータの正確性と経年変化を見ることが重要だと考えております。

KPI結果より、昨年度の課題でありました「禁煙」については15%UPとなり改善傾向が伺えます。

喫煙対策として健康への影響防止とまた受動喫煙対策として非喫煙者への配慮が必要不可欠ということから、
2025年下期に「2028年敷地内全面禁煙」を掲げ、段階的にレベルをUPしていく「禁煙チャレンジ」の実施効果と言えます。
更に2024年度の課題でありました「運動」は18%UP、「飲酒」は14%UPと改善傾向が伺えました。

今回の結果分析では、「睡眠」が昨年度よりも更に9%も低下したことが課題であります。

また、健康づくりの行動期と維持期の実績推移から「心の健康」は23%低下、「睡眠」では2%低下していることも課題であります。
データ分析から「心の健康リスク上昇」と「睡眠習慣の低下」を把握しました。

今年度は「食生活・飲み物」に向けた取り組みを強化しつつ継続し、「心の健康・睡眠」に向けた取り組みと動機付け・啓蒙活動から
「習慣付け」への取り組みを行うことで行動変容を促す働きかけとサポートも継続して行っています。

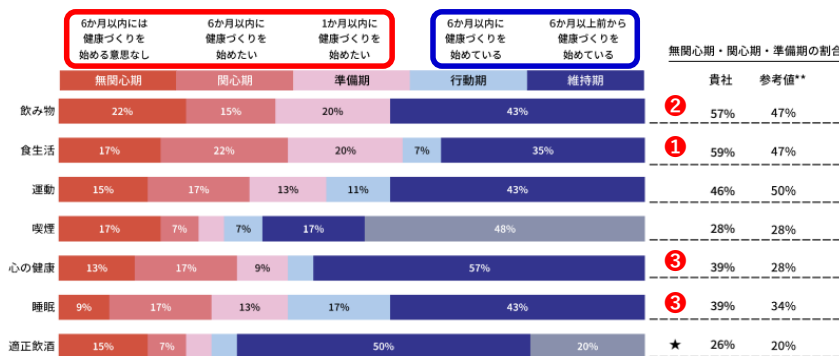
▼アンケート実施対象者の内訳と推移

	2026年	2025年	2024年
管理職	11	8	9
製造部門	12	7	7
間接部門	17	17	14
合計	40	32	30

▼生活習慣（7項目）に関するアンケートを継続実施し、疾病リスクと生産性を阻む要因の分析に役立てています（2019年～アンケート開始）

従業員の健康意識・行動（5段階）

7項目について、健康を意識した行動をとっている人、そうでない人の割合を把握します。
グラフの青い割合が多いほど、健康行動がとられている理想的な状況といえます。
グラフの赤い割合（健康行動をとっていない人の割合）を減らせるか、改善余地を検討します。



※今年度は「食生活・飲み物」「心の健康と睡眠」の
セミナーや啓発活動を積極的に行っています。

2026年度、参考値と比較して

ワースト①に「食生活」（2025年度▲4%減）
ワースト②に「飲み物」（2025年度+1%増）
ワースト③には「心の健康と睡眠」の
無関心期・関心期・準備期の割合が
多い結果です。

昨年同様に「食生活・飲み物」に関して
改善意識の低い傾向が確認されます

▼健康づくりの行動期と維持期の実績推移

項目	実績 2019年度	実績 2020年度	実績 2021年度	実績 2022年度	実績 2023年度	実績 2024年度	実績 2025年度	実績 2026年度
飲み物	43%	51%	50%	50%	55%	45%	44%	43%
食べ物	53%	58%	61%	64%	72%	38%	37%	42%
運動	56%	61%	66%	65%	41%	52%	44%	54%
禁煙	70%	70%	65%	70%	63%	62%	57%	72%
心の健康	74%	71%	69%	73%	66%	82%	84%	61%
睡眠	65%	68%	68%	75%	69%	59%	62%	60%
適正飲酒	49%	52%	56%	63%	69%	58%	67%	74%

★

前年比
-1%
+5%
+10%
+15%
-23%
-2%
+7%

分析からわかったこと
①質の良い睡眠をとることを
心掛ける意識の低下
63%→61%（▲2%）
→睡眠習慣の低下
②悩みやストレスの要因項目
増加（項目の該当数）
49項目→67項目
→心の健康リスク上昇

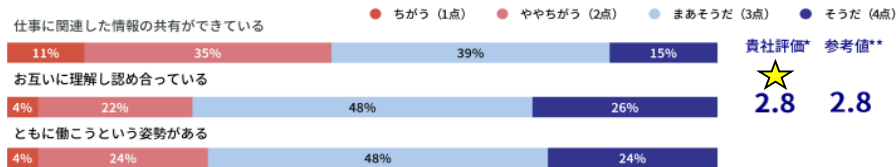
● 職場の働きやすさ



★ 印...参考値より上回って

職場の働きやすさとは、会社が体制を整え、従業員間で協力して作り上げるものと考えます。
以下の質問に、「そうだ」「まあそうだ」と答える従業員が多いほど、働きやすい職場であると言えます。

職場の一体感



貴社評価★ 参考値**
2.8 2.8

心理的安全性



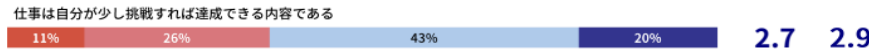
★
2.9 2.7

自由裁量権



★
3.0 2.8

仕事の達成可能性



2.7 2.9

● 従業員の仕事の充実と働きがい

仕事を充実させるためには、従業員の働きがいが必要です。

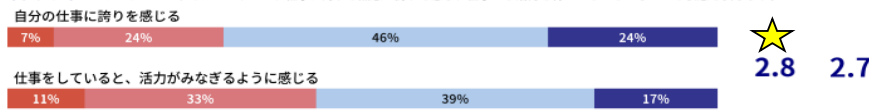
仕事満足度



★
3.0 2.8

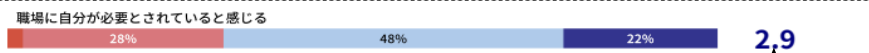
ワーク・エンゲイジメント

※ワーク・エンゲイジメントとは、仕事に対する熱意・誇りを感じ、仕事から活力を得ていきいきとしている状態を表します。



★
2.8 2.7

貢献実感



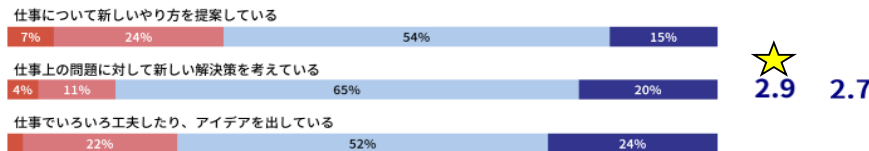
2.9

主体性



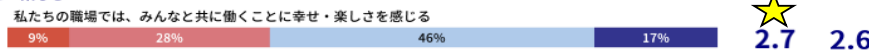
★
3.0 2.9

創造性



★
2.9 2.7

同僚と働く幸せ・楽しさ



★
2.7 2.6

具体的な取り組み

- 健康増進・生活習慣病予防対策
 - 健康診断受診率100%、健康診断再検査の受診率向上 (産業医との連携と面談フォロー・受診確認書の提出)
 - 婦人科系健診の女性従業員受診率100% ③野菜摂取量測定「ベジチェック」
 - ④特定保健指導の実施率100%と個別フォロー(初回から評価まで) ⑤「自分カルテ」による個別要因分析と個別フォロー
- メンタルヘルス不調等の対策
 - ストレスチェック受診率100%、ストレスチェック高判定者フォロー (産業医との面談実施)
 - メンタルヘルスクア「キャリア面談の実施」
- 喫煙率低下に向けた対策
 - 禁煙デーの実施 (毎月22日) ②禁煙外来治療費の補助 (全額会社負担) ③敷地内全面禁煙に向け禁煙チャレンジ実施
- 働きやすい職場づくり
 - 職場環境整備の推進 「女性更衣室新設」「古道工場 照明設置 (入替え)」「古道工場 エアコン追加設置」
 - 健康経営コーナー器具増設 「上腕式血圧計」

今後の取り組みについて

今回の調査結果による従業員の不健康による労働生産性損失額は、アブゼンティーイズムコストは99万円 (2025年64万円/2024年135万円) で、プレゼンティーイズムコストは3,920万円 (2025年2,784万円/2024年2,730万円) でした。

従業員一人ひとりが十分に能力を発揮できるためには、職場の健康増進と働きやすさに加えて、従業員の働きがいと生きがいの向上を通じたウェルビーイングの現実が重要です。

そのためには健康経営の取り組みを継続実施することで、健康・安全・ウェルビーイングを高めて労働生産性の向上につなげていきます。

また、従業員の仕事の充実と働きがいにおいて、健康でいきいきと働ける状態を目指すためには、ワーク・エンゲイジメントを高めることが重要と考えられますので、身体とこころの健康づくりのサポートと健康増進、健康寿命延伸のため取り組んでいきます。

全従業員が健康・安全で安心して働き続けられる会社を目指して「全社一緒に」取り組んで参ります。